

三隅八幡宮秋季例大祭



毎年恒例の三隅八幡宮秋季例大祭が9月15日(日)・16日(月)に行われました。

今年は雨のため出店がなく、参拝者も例年より少ないようでしたが、兔渡谷神楽舞と上中小野・上げ自治会の腰輪踊が奉納されました。神楽舞は「四剣の舞い」、「將軍」など4つの演目が兔渡谷神楽舞保存会により奉納され、腰輪踊は上中小野の「鬮鶏」、上げの「虎の子渡し」が舞われ、参拝者は伝統の舞いに見入っていました。



わがまちの文化(2)

盆踊り「志賀団七」

お盆にあたり、新盆の家を踊り歩いて、弔意をあらわしていたのは、かなり以前のことである。町内滝坂に伝わるそれは、文化財といえないまでも、一風変わったものであった。

うら若い百姓の姉妹が父親の仇をうつという物語で、鎖鎌と薙刀をふるって、二刀流の志賀団七に對し、丁々発止と斬りむすぶ踊りである。仇うちとは物騒な言葉なくもないが、もともと盆踊りなるものが、死者への鎮魂の意味もあるとすれば、納得できないこともない。

M 国は奥州白石郡、佐方村にて百姓の与太郎、心正直律義なものよ、与太郎女房に「おさよ」と云うて、二人見目良き娘がござる……と、独得のリズムをもった口説きに始まり、「ハヤートヤト」と相の手もはいる。

M ……二人の娘、畦の小道に田の草投げる、投げた田の草団七どの足に当れば、仰天致した親の与太郎笠脱ぎすてて、畦の小道に



両手をついて、さてはあなたとの夢ほど知らぬ、無礼致した二人の娘、どうぞ堪忍お許しなされ……。

ひれ伏して詫びる和太郎であるが、むなしく無礼うちにされてしまふ。あまりのことに女房「おさよ」も程なく他界して、それから「おみや」「おのぶ」二人娘の苦勞が始まる。

江戸に出て武芸に励むこと三年、許可を得て型どおりの仇うちの場役人の立会衆人環視の中、見事本懐を遂げたという。

三隅町文化財専門委員会

新刊図書紹介

トレセン図書室より

「子ども向」

「猫の恩返し」1144

(企画) 宮崎駿 / 徳間書店

「空ゆく舟」

(作) 沖井千代子 / 小峰書店

「むしたちのうんどうかい」

(文) 得田之久(絵) 久住卓也 / 童心社

「ねこたちの町」

(文) わしおとしこ / アリス館

「そだててあそぼう31」

ブルーベリーの絵本

「32 キャベツの絵本」

「33 ナタネの絵本」

「34 アサガオの絵本」

「35 シイタケの絵本」

／農山漁村文化協会

(大人向)

「あかんべえ」

(著) 宮部みゆき

／PHP研究所

「幽幻術」

(著) 菊地秀行 / 新潮社

「ひとが否定されないルール」

(著) 日本流奈 / 講談社

「余命宣告」

(著) 吉見翔子 / 講談社

「きれいな敬語羞かしい敬語」

(著) 草柳大蔵 / グラフ社